

学友会の意気込み

「上昇」 学友会会長 櫻川 美波

今年度の学友会執行部の目標は「上昇」です。昨年度は、「革命」という目標のもと、どうすればよい学校になるかなどを考え、「挨拶」の「あいさつお作文」の募集や、忍ヶ丘祭での様々な工夫など、少しずつ「革命」に繋がることを行ってきました。そのような軌道を作ってくださった先輩方の思いを受け止め、私たちは「上昇」という目標のもとに更なる発展を目指していきたく思っています。そして、卒業するときに、学友会全員が宮崎学園短期大学に入学してよかった、充実していて楽しかったと思ってもらえるように、執行部を中心に学生全員で学校を作り上げていきたいと思ひます。

大変なことはたくさんあると思いますが、ピンチをチャンスに変えて、全力で頑張っていきたいと思いますので、どうぞご支援、ご協力をよろしくお願い致します。



「上昇」を掲げた春の忍ヶ丘祭を終えて」

鶴 伸一郎

平成25年4月27日に、春の忍ヶ丘祭が開催されました。私は、実行委員長として昨年の先輩方の掲げた「革命」というテーマを「上昇」させることを念頭に置きながら、どのような競技なら学生はもちろん、教職員の先生方も心から楽しめるかを重視しました。準備期間は、本当に大変でした。競技の内容や当日の準備等を、学友会執行部全員で幾度となく打ち合わせをしました。開催1週間前は毎日遅くまで残り、帰り着くころには夜遅くなっているのが当たり前になっていました。すべての準備が終わり、前日の日にグラウンドを眺めながら私は、ここまで頑張ったのだから当日は最高の瞬間が待っていると確信しました。

当日は、学長先生が命名された「春忍日和」になり、最高の春の忍ヶ丘祭になったと思います。学生の皆さんの元気いっぱいな姿が見られて本当に良かったです。初めて主催者側に立ち気付いたのですが、学生や教職員の先生方の弾けんばかりの笑顔が何よりも嬉しく、楽しんでもらう気持ちを知ることができ、感動したと同時に達成感も味わうことが出来ました。

今回、春の忍ヶ丘祭を開催し、学生の皆さんが「この学園に入学してよかった」と心から思ってもらえることが、私を含めた学友会執行部全員の総意であります。最後に準備等を手伝って頂いた各クラスの春の忍ヶ丘祭実行委員の方々、教職員の先生方に深くお礼を申し上げます。ありがとうございました。

平成25年度 オープンキャンパスのご案内

第1回 7月7日(日)・第2回 8月4日(日)

受付 9:30～ 開催 10:00～15:00

内容 ウェルカムコンサート、ミニ講座、展示、入試相談コーナー、学食体験の他、保護者のための説明会も開催。無料送迎バスあり。

平成26年3月春のオープンキャンパス 3月9日(日)

本学への理解を深め、大学を身近に感じていただくために、本年度もオープンキャンパスを上記の日程で開催いたします。多くの高校生や保護者のかた、先生方の参加を期待しています。各学科よりバラエティー豊かな企画が準備されていますので、お知り合いの方にご案内いただくと有り難く思います。詳しくはホームページでご覧下さい。

アドレス <http://www.mwjc.ac.jp>(入試広報部)

就職活動に向けて

大学等就職率は、文部科学省から昨年度末時点がまだ発表されておらず、平成25年2月1日時点の就職率は大学81.7%、短期大学78.8%で、全国的に就職率が若干良くなっている状況です。宮崎学園短期大学は就職率93.7%を達成することができました。この高い就職率を支える要因は、資格職の強み、伝統的な信頼による求人、個別の細やかな就職指導にあります。求人状況が良くなっているとはいえ、依然として厳選志向が続いているため、厳しい就職戦線を打破するには各自の積極的な就職活動が必要です。就職活動の第一歩は情報の収集で、企業の場合はネットによる登録エントリー、企業説明会への参加などです。保育園等の場合は、実習園等での自主実習・行事参加や自宅近くの保育園等に履歴書を持参しての就職のお願いなどが重要な就職活動です。

受験活動は、今までにない経験をし、精神的に辛い事もありますので、保護者の方々からも声かけなどの支援をお願い致します。

2年生 保護者会のご報告と
1年生 保護者会のご案内

6月1日(土)2年生保護者会が行われました。あいにくの雨模様でしたが、80名の参加を得て、全体会、学科会ののち、学級主任との個人面談が行われました。個人面談と平行して、就職指導課・専攻科進学・何でも相談の3つの相談コーナーも設けられ、相談者が訪れました。保護者と本学教育が連携するきっかけになることを願っています。何か気がかりなことがあれば、いつでもご連絡ください。



1年生保護者会は10月19日(土)を予定しています。

夢叶った演奏会♪

保育科2年A組 米良 寿明／音楽科2年 岡崎 美智子

「一緒に演奏しない？」と何気ない会話で、今回のコラボ演奏がスタートしました。新1年生の為に何か出来ることはないかと私たちが考えたのが合唱部と吹奏楽部の演奏でした。両部とも「音楽」をしている部活ですが、まったく感性は違っており、音楽のバランスが悪かったりして行き詰まることも多々ありました。

しかし、メンバー一同、新1年生に良い音楽が演奏できるように、「こういう音楽をしたい」「もっとこの音を出そう」等とたくさんの意見を出し、本番まで作り上げてきました。入学式当日両部とも調子も良く準備は整っていききました。しかし、当日予想もしていなかった「強風」というものがありました。外での演奏が厳しいというところまで追い詰められましたが、交流センターでの室内演奏という形はもったいないという気持ちがあり、強風に耐えながらも演奏の準備に入りました。譜面代が倒れたり、模造紙が風で飛んでいったりと様々なハプニングがありましたが、私たちは強風に負けないくらいの気持ちがありました。1年生のクラスアワーが終わり、いよいよ本番です。無事楽しく演奏することができました。たくさんの新1年生に「花は咲く」が演奏できたことは、私たちにとって一番嬉しいことです。アンコールまで頂いてすぐ充実した演奏会でした。お互い初めてのことであったので不安もたくさんありました。しかし演奏が終わった後、新1年生や保護者の方、先生方からのたくさんの拍手を頂き、今回演奏して良かったなと感じました。このような機会を得たことは本当に感謝の気持ちでいっぱいです。これを機に合唱部・吹奏楽部がより良い部になって部活動生が増えていったらいいなと思います。



6

後援会だより

June 2013 Vol. 21



春の忍ヶ丘祭

後援会会長より



性格を磨く

宮崎学園短期大学後援会
会長 穴井 雅之

先日、ある本に萩本欽一さんのことばが書かれていました。

「ぼくは長いことテレビをやってて、『あいつはうまいから使おう』なんて話、聞いたことはない。一番使われるのは、『あいつはいいやつだから使おう』っていう、この言葉が多いのですもん。だとすると、演技なんかよりは性格を磨いた方がいいよ。性格こそ、究極の才能のようです。2年間という短い期間に社会に出るための専門的な勉強している皆さん、学生の時にこそ人とできるだけ関わりをもって、自分を磨いていって欲しいと思います。宮崎学園短期大学の「礼節と勤労」の建学の精神はまさしくそれだと思います。

私たち後援会は、学生の福祉を増進するとともに学園の教育環境の整備を目的としています。子どもたちのそれぞれの夢の実現のために、私たち保護者と学校が協力して支援してまいりたいと思っています。

学長所感

願いは、今こそ
全力での勉学を！宮崎学園短期大学
学長 山下 忍

新たな年度における宮崎学園短期大学の目標は何ですか、と問われれば、私は、勉学して止まない学府の樹立と、即座に答えます。

社会に飛び交う情報は、まさに氾濫と呼んでよい状況にあります。そうした中で、何が大事で、何が泡沫か、あるいは、正解的なものはどこにあるのか、そうしたことごとを見極め、判断していくには、勉学して己を鍛えるしかありません。換言すれば、全力で頭を鍛え、心を養うことが、即、己を「自己喪失の危機」から救ってくれるのです。

学生もよく勉強し、教職員もよく勉学する、家庭もまた同様、そうした宮崎学園短期大学でありたいと強く願っています。

平成25年度は、多くの新入学生を迎えて、明るく元気に出発することができました。キャンパス内の緑も鮮やかです。本学を彩る樹木や鳥たちにも心を寄せながら、一層の元気さと一層の明るさで、学園の日々を送っていききたいと思っています。加えて、志高く、夢多く生きていきたいと願っています。

保育科

人生を支える保育科の使命

保育科長 野坂 敬

保育科は、開学以来47年間に亘って本県の保育所・園を中心とした幼児の発達・成長援助分野に、多くの人材を輩出してきました。現在では、多くの先輩諸氏が保育や幼稚園教育及び福祉施設現場で重要な役割を果たしておられ、その後を後輩が次々に受け継いでいます。このように47年間の伝統に支えられた歴史は、本学の保育科が本県のこどもの福祉や教育に大きく貢献し続けていることの証であり、本学が果たし続けていかなくてはならない「使命」であります。

また、超高齢化社会を迎え、1998年には保育科に専攻科「福祉専攻」を設置し、時代のニーズに支えられて「介護」分野にも優れた人材を送り出すようになり、保育のみならず高齢介護の分野にも大きく貢献することができるようになりました。

人生のスタートに関与し、こども達の人生に大きな影響を与える保育士養成。そして、人生の完成期に「尊厳」を守り、その人らしい人生の主役を全うすることを支える介護福祉士の養成。今後とも本学の保育科が、本県の保育士・介護士育成の中心として存在し続けることが「使命」であることをしっかり受け止めていきたいと思っています。



学科長に聞く

初等教育科

学び考える

初等教育科長 黒木 國泰

この春、初等教育科は最後の入学者、第47回新入生を迎えました。平成26年度には、宮崎国際大学に教育学部が新設され、私どもの初等教育科半世紀の伝統を継承発展させてください。

初等教育科にとって歴史的な年、平成25年度に初等教育科長を拝命しました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

学問をする上での心構えを孔子が説いた「学んで思わざればすなわち罔(くら)し。思いて学ばざればすなわち殆(あやう)し。」という言葉があります。現代に置きかえると「学ぶ」は広く読書や授業を通して習い知ることです。「思う」は自分自身が思索することです。書物を読み聞くだけで自ら考えることをしないと、受動的に学的蓄積がふえるのみで、得た知識を生きた行動につなぐことができません。

反対に思索にふけるのみだと独善的な堂々巡りになりがちで不安定になります。つまり学問の基本は、よく読みよく聞き、よく考えて自分のものにしていくことです。

初等教育科の使命は、学問を修得したよき教員、よき社会人の育成を通して社会貢献することにあります。



音楽科

音楽科における礼節と勤労

音楽科長 末平 浩康

新年度が始まってもう3カ月が過ぎようとしています。

今年も、我が短大の「建学の精神」の“勤労”の賜物であるソラマメの収穫が終わり、事務室前で、袋詰め放題100円セールが行われております。袋詰めに躍起になっているのは、ほとんど短大の教職員ですが、中には、学生も時々見かけます。

ある日、一人で3袋〜4袋も抱えている女子学生がおりましたので、「すごいね!どこまで持って帰るの?自宅なの?」と聞いたところ、都城から通学している学生で、祖母に、ソラマメの話をしたら、是非買ってきてくれとのこと…面倒くさがらず、自分の荷物が一杯あるにもかかわらず、遠い都城まで持って帰ってやろうというその学生の気遣いに感動させられたことでした。勤労の精神が、きちんと、自然に育っていることを大変うれしく思いました。

ところで、音楽科における「礼節と勤労」とは何でしょう?

音楽科の実技は、週に1回レッスンという形で行われますが、週1回30分か45分のレッスンを先生に指導していただくためには、1日に数時間の自分の練習の積み重ねなしでは考えられません。一所懸命努力した姿を見てもらう、さらけ出すことが、音楽における「勤労」と考えます。「礼節」は、「勤労」の精神と相まって、レッスンにふさわしい服装と心で臨むことと考えます。

話は変わりますが、ピアノや西洋の楽器の音が、音楽科の主流ですが、昨年までは、琴の音色が聴こえていたのですが、今年は、音楽棟から、津軽三味線の音も聞こえます。思わず立ち止りたくります。今年も楽しみです。



～宮崎学園短期大学の使命～

人間文化学科

「大きな声」で、「ハキハキ」と、そして「笑顔」で! 人間文化学科長 久保 良一

本学の朝は、ウグイスやおじろなどの野鳥のきれいなさえずりや私の研究室から見える売店の壁の配線箱に毎年、雀が巣を作り子育てしている元気な営みから始まります。そして、8時過ぎになると、「おはようございます」と元気な声が学内に飛び交います。長年営まれた忍ヶ丘での光景であります。

学科会でも、学科生は非常に明るく、笑顔がある。「おはようございます」から「お疲れ様でした」、「さよなら」と大きな声であいさつをしてくれる。学園に一挙に春の息吹が吹いてきたようであるという話題になります。私達が日頃から使命としている「大きな声」で、「ハキハキ」と、そして「笑顔」でを、すでに実践しているのであります。また、社会人としての基本である「読む」、「書く」、「話す」、「聞く」などのリテラ

シー育成にも力を入れながら、多様化するビジネス社会で必要とする有能な人材育成を目指しています。

平成26年度から人間文化学科は、学科名を「現代ビジネス科」に名称変更します。現代にふさわしいビジネス教育をさらに展開していきますので、今後とも、ご支援、ご協力をお願いいたします。

